

ビデオクリップ（あらすじ）

村井甲斐は、中学 1 年生ながら剣道部のエース。練習に励み、着実に力をつけ、レギュラーになりました。ブログを立ち上げ、剣道の練習のことや日々の思いを書いています。練習試合で、ライバル校のエース榎本直樹に勝ち、うれしさのあまりブログに、つい軽い気持ちで「結構、楽勝…」と書いてしまいました。すると 50 件を超える批判的な書込みがあり、甲斐は落ち込みます。書込みはだんだんエスカレートし、甲斐は練習する気をなくしてしまいました。ある日、甲斐を励ます書込みが寄せられました。それは、直樹からのものでした。

ビデオクリップ（シナリオ）

【人物】

○一中生徒

村井甲斐（13）…一中・一年生ながら剣道部唯一のレギュラー
普通の子だが多少乗りすぎることも…

石川純（13）…一中・一年生・剣道部

毛利慶介（15）…一中・三年生・剣道部の主将

浦和美里（13）…一中・一年生（女子）・剣道部

一中剣道部員…数名（前記メンバーを含め 10～12 名くらい）

○四中生徒

榎本直樹（14）…四中・二年生・甲斐のライバル

四中剣道部員…四名

○先生

根本…一中の剣道部顧問

能登…四中指導者・剣道部顧問 引率者

剣道部のコーチ

○中学・剣道場内

剣道部員たちが練習している。

練習する剣道部員の声（オン・迫力）

声 「イヤァァァァ！」

タイトル「侍ブロガー危機一髪」

○中学・剣道場の外

村井甲斐（13）と石川純（13）、面を外し、汗を拭っている。

甲斐「あっそうだ。おれ最近家でブログやってんだよね」

純 「ブログ？」

甲斐「うん、ブログ。携帯の」

「へー。甲斐、ブログなんかやってんだ」

甲斐「先月からな」

純 「なんてタイトル？」

甲斐「笑うなよ。カイの剣道一直線！」

インサート・携帯の画面上にブログのトップページが表示されている

純の声「カイの剣道一直線ねえ。誰か見てくれたりしてんの？」

甲斐「どうかな。コメントとかもほとんど無いし」

純 「そっか〜」

そこへ主将の毛利慶介（15）が加わる。

慶介「甲斐！ 四中、来たぞ」

入口から四中の引率の指導者と制服姿の四中の生徒、六名が剣道場にぞろぞろと入ってくる。

甲斐と目が合う榎本直樹（14）、口元に微かな笑みを湛えながらも鋭い視線。

直樹「春の個人戦以来だな」

甲斐「はい」

直樹「今日は絶対負けないからな」

甲斐「…（口元をぐっと締める）」

甲斐と直樹の間に火花。

○インサート・中学校・校庭（時間経過のため）

誰もいない校庭。

コーチの声「(先行して) 勝負あり！」

○中学校の剣道場

慶介「(戻ってきて) …すまん。これで、二い二いだ（※二対二の意味）。頼むぞ」
緊張した顔で立っている甲斐。

甲斐「はい！（と立ち上がる）」

× × ×

向かい合う甲斐と直樹。

一礼する甲斐と直樹。

コーチ「始め！」

りゃあ！と間合いを測っている直樹。

直樹が打ってくるが甲斐は見事にかわす。

甲斐・心の声「さすが榎本さん。相変わらずするどいな」

更に直樹が攻め込んでくるが決まらない。次の瞬間——

甲斐・心の声「今だ！」

甲斐が見事な面をする。(決まる瞬間までスローモーション)

甲斐「ややああああー——ッ！」

コーチ「面あり！（と旗を上げる）」

テロップ「甲斐の勝利！！」

喜ぶ純ら一年生部員たち。

○剣道場の外

着替えを終えて帰る純と美里（13）が 甲斐を囲んでいる。

純 「甲斐、すげえなあ。」

美里 「ねえ。これで榎本さんと対戦成績五分でしょ？」

純 「次で勝ち越したな？」

甲斐 「(笑) そりゃ、どうかなあ」

美里 「もっと強気でいきなよ。うちの一年では唯一のレギュラーなんだからさ」

純 「そうそう」

甲斐のそばに、帰る直樹が近寄ってきた。

直樹「甲斐」

甲斐「はい…」

直樹「腕上げたな」

手を差し出す直樹。

直樹「次は県大会で！」

甲斐「よろしくお願いします（握手）」

直樹は去っていく。見送る甲斐。

直樹 振り返って「あっそうそう、甲斐のブログ見てるぞ」

甲斐「ありがとうございます！」

○甲斐の部屋（夜）

風呂上がりらしくバスタオルでごしごし頭を拭きながら、

甲斐「♪さ〜て、ブログ〜ブログ〜ブログの更新〜、と」

ベッドの端にすわり、携帯を操作し始める甲斐。

しばらく鼻歌交じりに操作を続ける甲斐。（引きの画で）

○通学路（朝）

「おはよう」と通学している生徒たち。甲斐も学校へ向かっている。

純の声「おい！ 甲斐」

甲斐「よッ」

純「見たぞ」

甲斐「え？ 何を？ まさかUFOとか？」

純「そうそう。昨日帰りがけにメキシコの上空でって、なわけないだろ。

ブログだよ、ブログ！ お前の！」

甲斐「ああ。ブログか。（おどけて）で、どうでした？」

純「結構強気で言ってたじゃん？」

甲斐「え？ 何を？」

純「＼結構、楽勝、とかさ」

甲斐「楽勝？」

※インサート・ブログの「結構、楽勝！」の文字。

そこから画面がひいて前後の文章が見える。

「E先輩と対戦、もちろん、面で勝利！！ 結構楽勝！ E先輩に勝ててマジうれしい。」と

書かれている

甲斐「あれか。まずかったかな？」

純「何心配してんの？まさかブログ炎上とか？」

甲斐「なるかな？」

純「まさか。大丈夫だよ。甲斐君は案外心配性だねえ～」

と、純、甲斐の肩をたたきながら甲斐にじゃれつく。

甲斐「大丈夫だよな。そうそう、学校行こうぜ」

過ぎていく甲斐たち。

○中学校・校庭（放課後）

○甲斐の家・甲斐の部屋（夕方）

ベッドの端にすわり、携帯をいじる甲斐。

甲斐「さ～てと、今日は…お！コメント来てんじゃん！五十二件って？ すごい！」

画面を読む甲斐、ニヤニヤ顔が徐々に曇っていく。

甲斐の、[携帯を握った手が震える]～[震える背中]～[全身（足元からあおり）]

甲斐「な…な、…なんだよー！これーッ！」※with echo

書き込み（声をそれぞれ変えていく）

「試合見てたけど”楽勝”じゃないっしょ」

「楽勝とか言ってナマイキ」

「相手が弱かったんじゃない」

○甲斐の家・外観（夕）

純の声「（電話越し）炎上？」

○同・甲斐の部屋（夕）

ベッドの上に座り、携帯で喋っている甲斐。相手は純だ。

甲斐「…ああ。そうなんだよ！書き込んでくるんだよ、コメントの所に。

誰が…って…知らないよ！どっかのヒマ人だろ！もう百件超えてるんだ。今もジャンジャン来てんの。

とにかくさ、明日、朝練、休むからさ」

純の声「なんで？」

甲斐「なんかやる気がしないんだよ」

純の声「県大会予選来週だぞ。大丈夫か？」

甲斐「予選？ ああ…でもとにかく明日は頼むよ」

純の声「分かった。だけどあんまり考え込むなよ」

甲斐「ああ。ありがとう。じゃあな（と電話を切る）」

畳んだ携帯を机の上に置く。

甲斐「…はあ」

甲斐、ため息をついて、机の上の携帯を眺める。（携帯は机の上であり、さわっていない？）

甲斐心の声「…オレって実は嫌われてんのかなあ」

その瞬間携帯がメールの到着を知らせる。

ハッとする甲斐。操作する。

甲斐の脳裏に渦巻く書き込みの文字と声。

「カイ サイアク」

「弱いってなんだよ！」 「たかが剣道だろ」

「たかがって何だよ」

「試合見てたけど、楽勝じゃないっしょ」

「楽勝とか言ってナマイキ」

「相手が弱かったんじゃない」

「カイ、サイアク」

甲斐、再び携帯を畳み、机の上に放る。

甲斐「…はあ。もうヤだ」

甲斐「…思い切ってやめようかな」

少しの間あって――

携帯がメールの到着を知らせる。

甲斐「またかよ！ もういい加減にしてくれよ！」

甲斐、荒々しく携帯を手に取り、操作する。読む…

甲斐の表情「え？」の顔に変わり固まる。（読んでいる）

直樹の声「…カイ。何か書き込みでずいぶんだいぶ叩かれているみたいだけど、気にすることないぜ。言いたいヤツには言わせとけばいいさ。おれはお前のブログを見て、もっと練習やってやる！ って気持ちになったよ。

確かに昨日の面はずごかったけど、その前の突きはケッコー甘かったぞ。

次は「楽勝」とはいかないからな」

直樹が書き込んだコメントの画面が入る。

直樹が自分の部屋からコメントを書き込んでいるシーンが入る。
直樹が甲斐の練習しているところをじっと見ているシーンが入る。

甲斐「(眩く) …榎本さん」

甲斐の脳裏に直樹の顔が浮かぶ。(登場シーンの、鋭い視線の直樹)

甲斐「(ほんの小さく、息をつくように笑う) …フ」

甲斐、携帯を閉じて、机の上に置く。

目を上げる。視線の先に竹刀が見える。